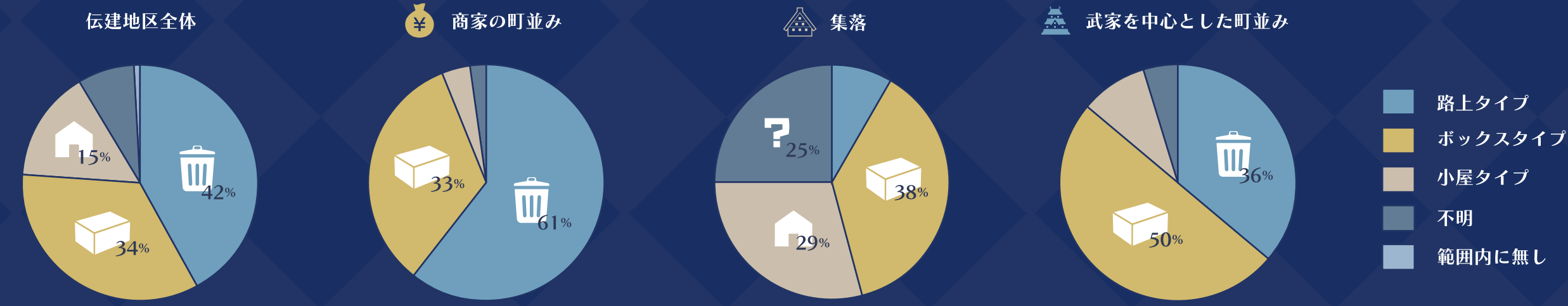


Trashi station design theory

ごみステーションの設計論

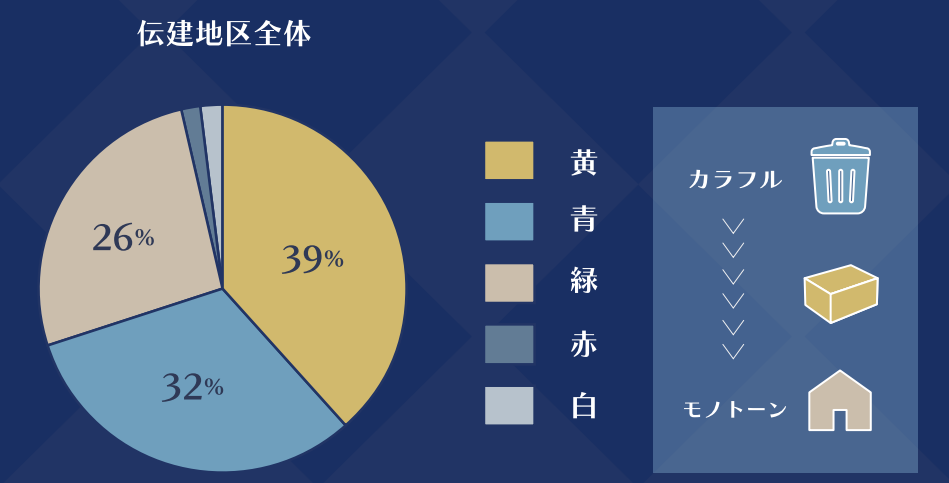
*ここでの素材、サイズは、伝建地区内にあったごみステーションに限らず、店舗や通販で販売されている様々なごみステーションを参考にしている。

ごみステーション種類別の割合



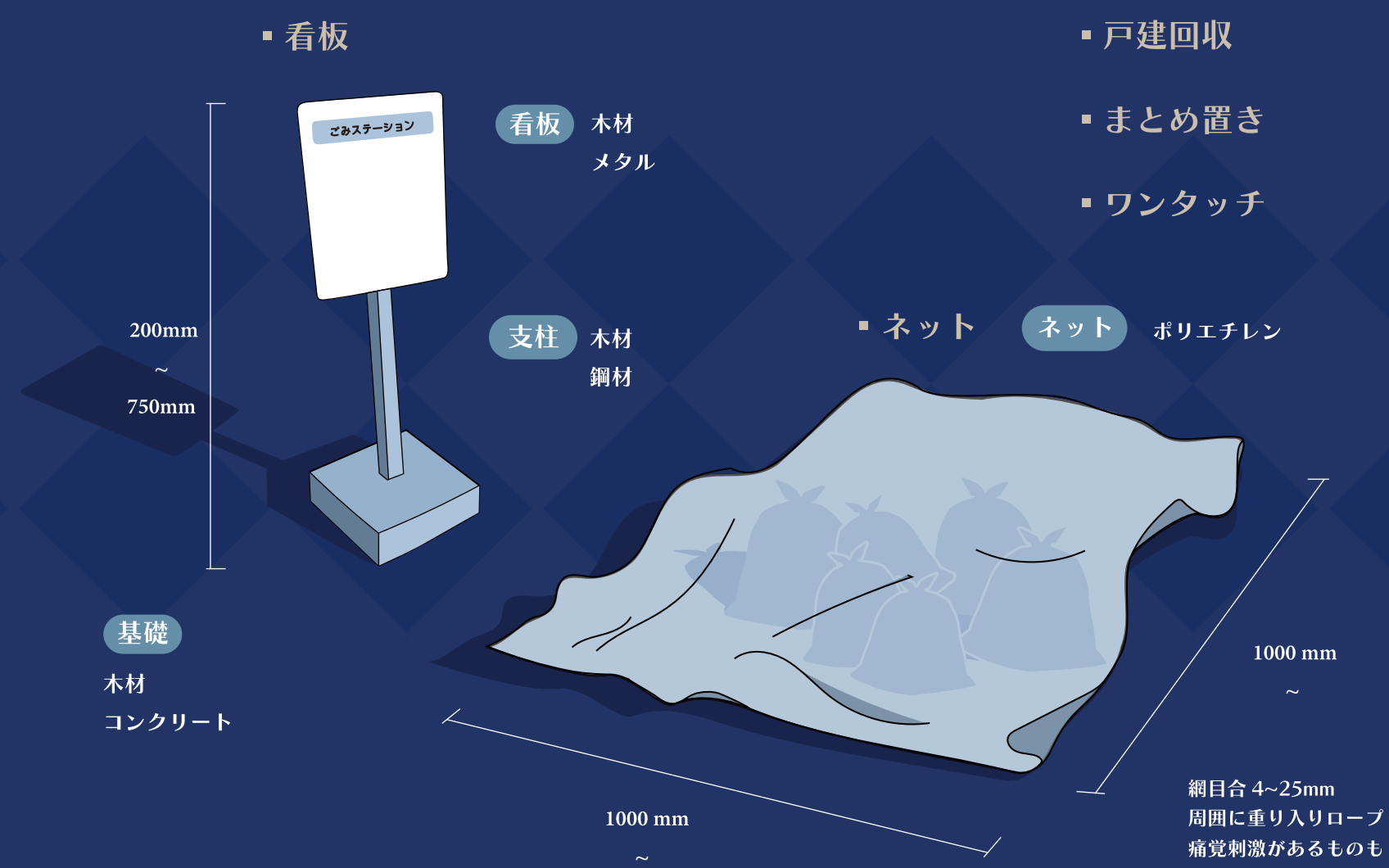
伝建地区全体で見ると、路上タイプが42%で一番多く、次いでボックスタイプが34%だった。伝建分類別で見ると特に、商家・集落・武家を中心とした町並みの3つに特徴が色濃く出ていた。商家の町並みは間口の狭い町家が密集しているため、スペースがあまりない。そのため、スペースをとらない路上タイプが61%と一番多く、反対にスペースを多くとる小屋タイプは4%と少なかった。集落は、8つの分類の中で小屋タイプが一番多かった。動物対策として金属などの強固な素材がほとんどだった。集落にごみステーションが1つしかないところもあり、高齢者のごみ出しを困難にさせている原因だと感じた。武家の町並みは生垣や塀が長く続く町並みのため、通りから見える場所にごみステーションを設置しているところは少なく、コンパクトなボックス型や戸建回収が多い。

ネットの色彩別割合

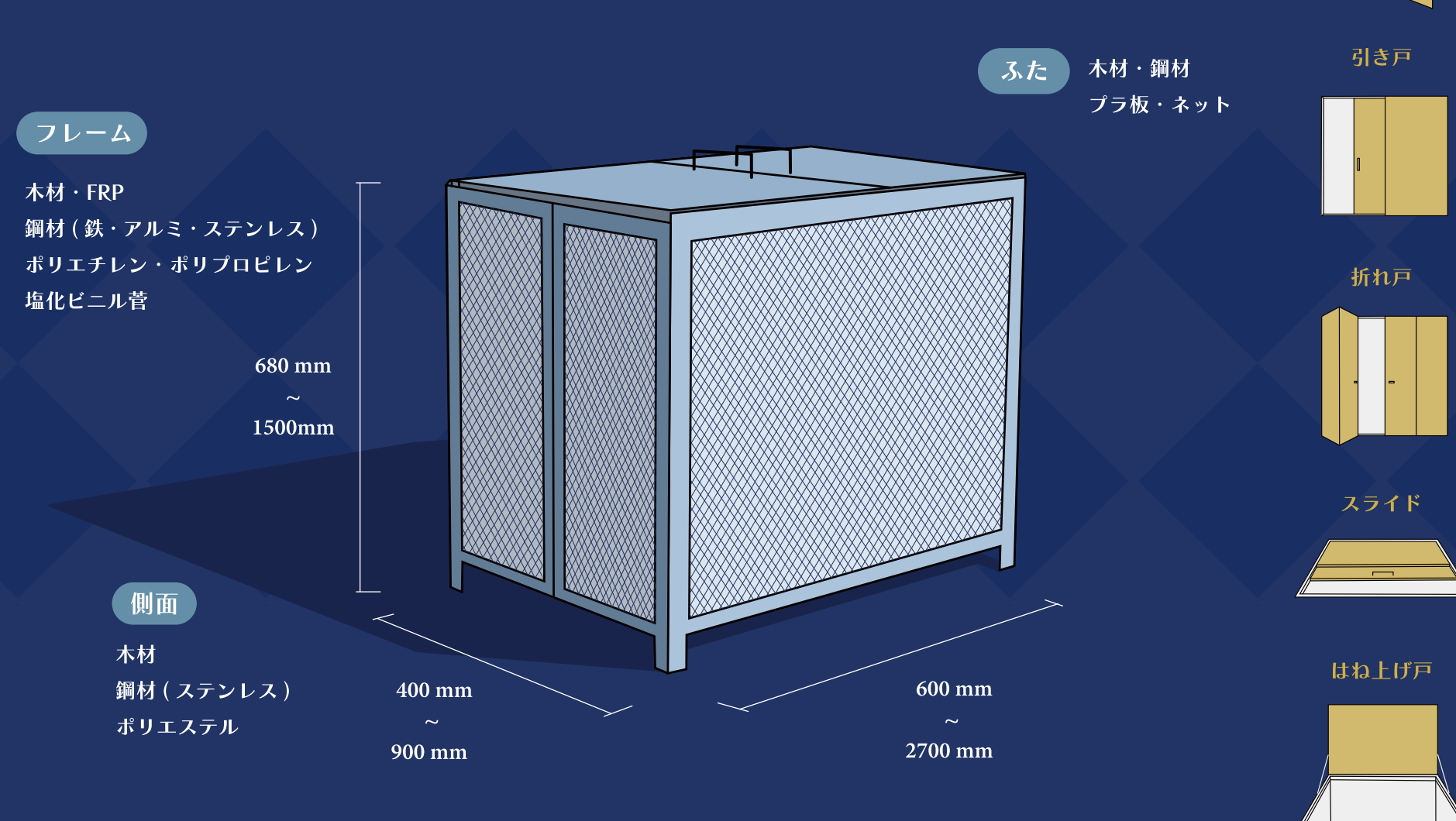


ネットだけで見ると、黄色が39%で一番多く、黄色はカラスに有効であるという誤情報の由縁が垣間見える。意外にも少なかった緑色は、ボックスタイプで多かった。全体を通して見ると、路上タイプになればなるほどカラフルになり、小屋タイプは落ち着いた色彩のものが多かった。

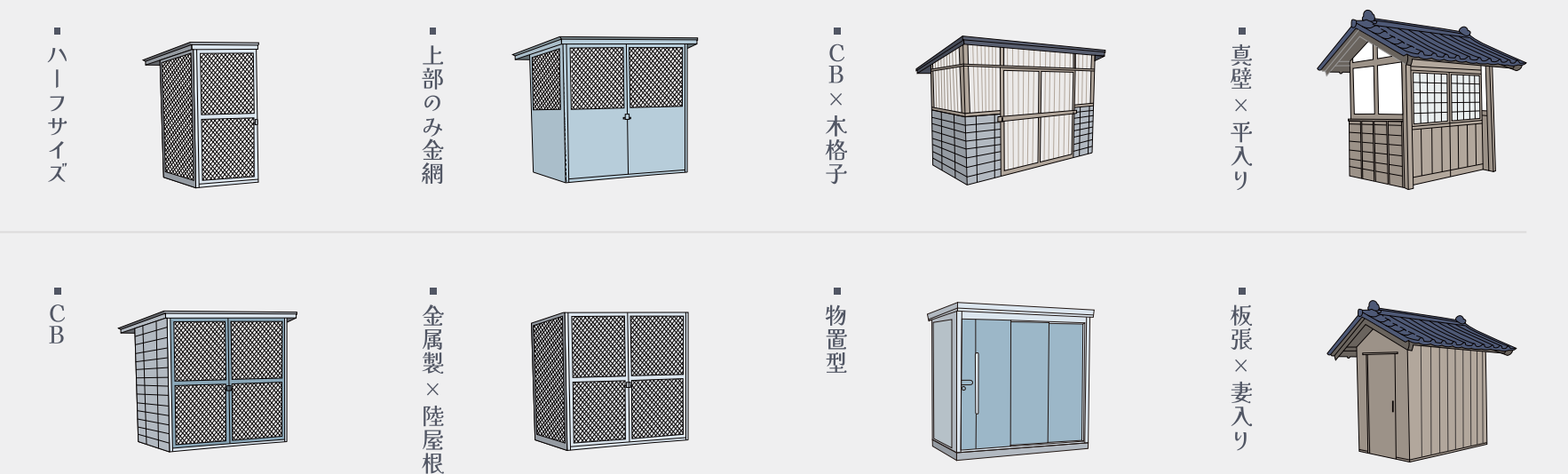
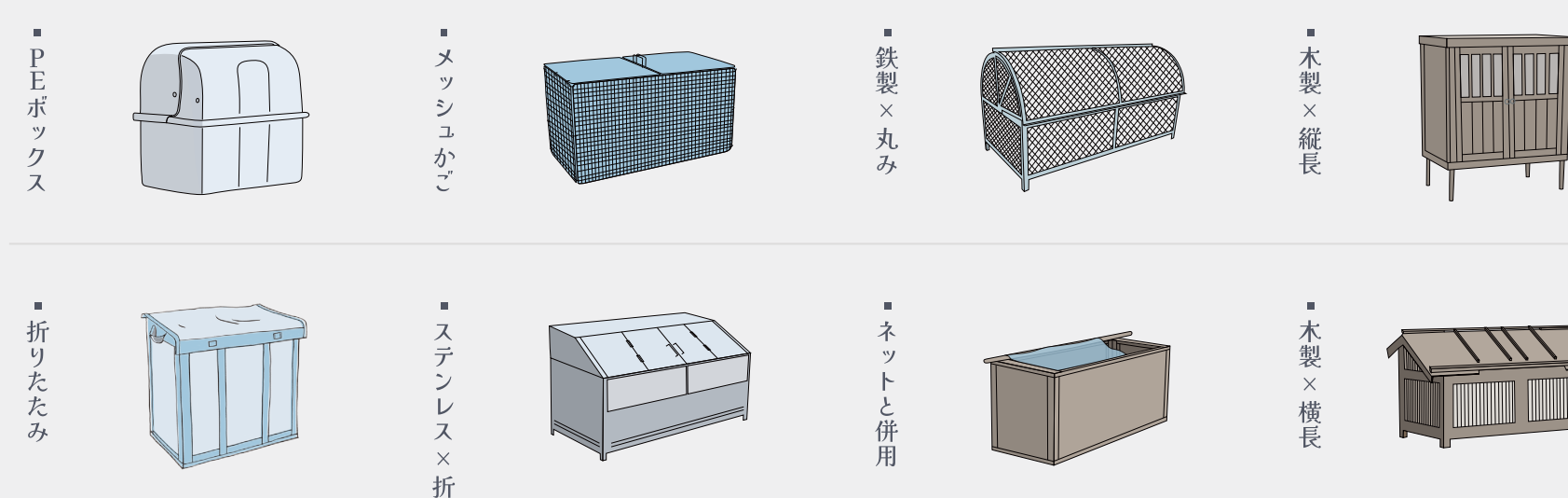
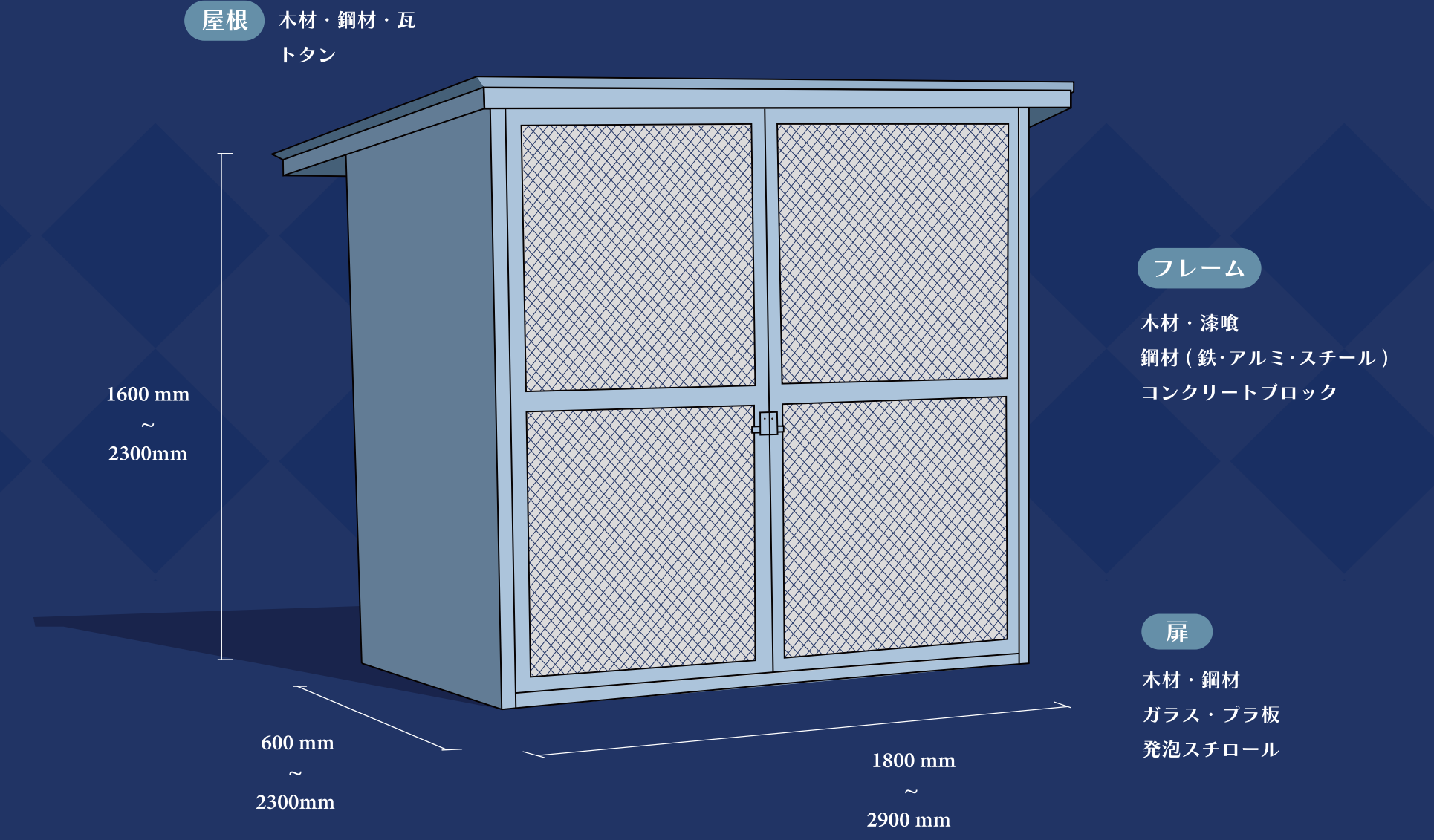
路上タイプ



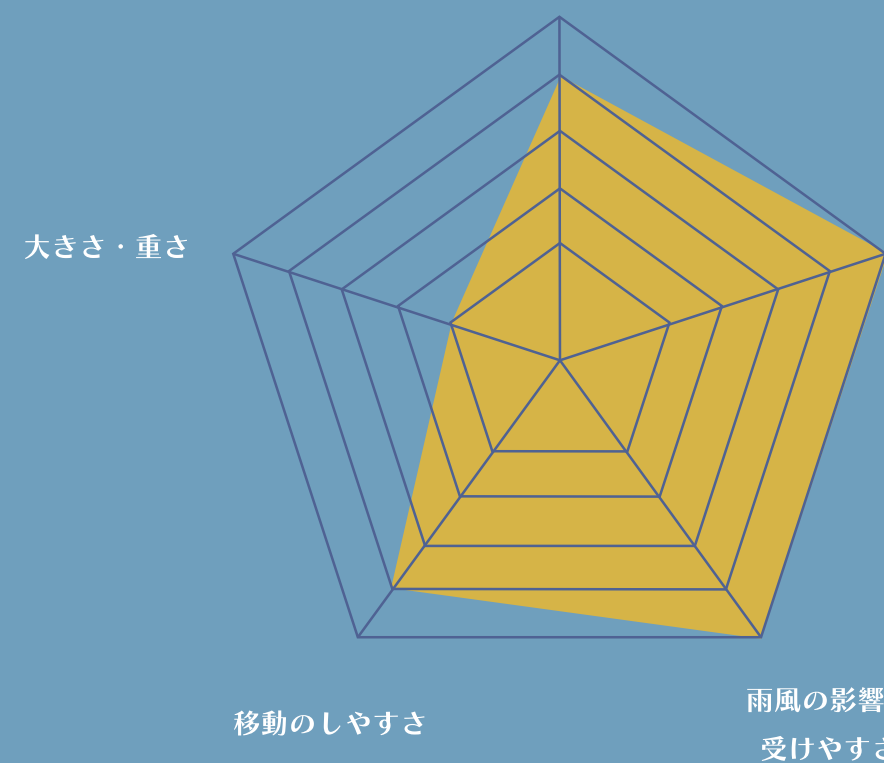
ボックスタイプ



小屋タイプ



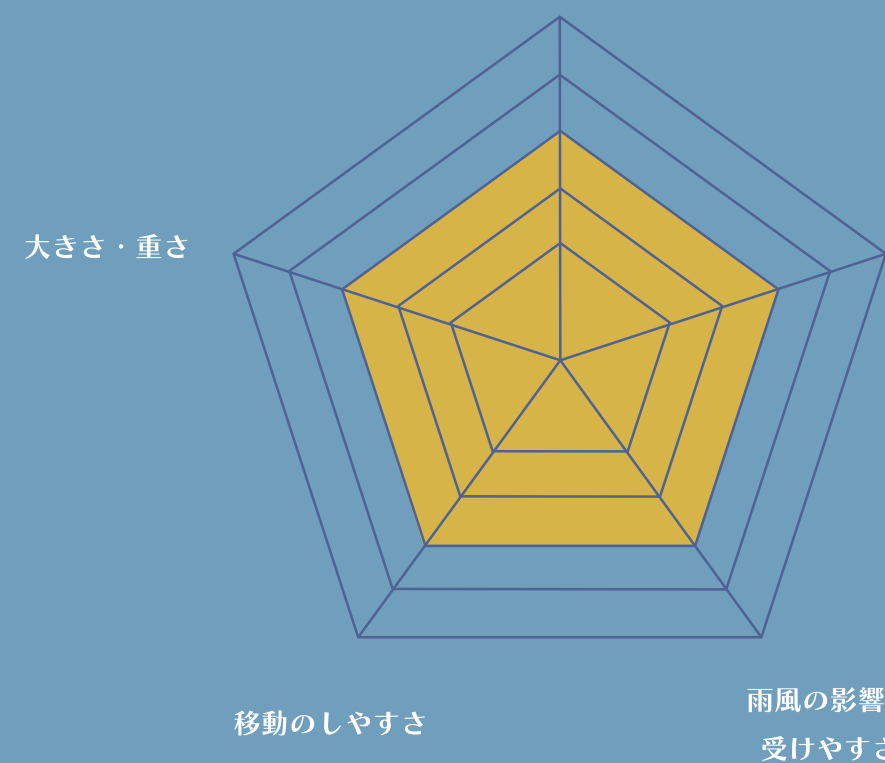
修景のしやすさ



特徴

路上に直置きするタイプ。住人たちが決まった場所にまとめて置いておくタイプや、看板とネットを併用しているところもあった。戸別収集を行っているところは、ポリバケツや小さなボックスタイプを各々用意している家もあった。省スペースで済むため、町家の密集する地域に多く見られた。路上タイプ全体で見ても人の背丈を超えるようなサイズ感のものは無くコンパクト。手軽で安価だが、動物に狙われるとひとたまりもない。また雨風にさらされるため、素材によっては破損しやすく、寿命が短い。ネットの収納が煩雑だと汚らしく見えてしまう。そのため、クリップで止めたり、カゴに入れたり工夫しているところも見られた。また、他の2タイプと比べると圧倒的に鮮やかで目立つ色が多い。

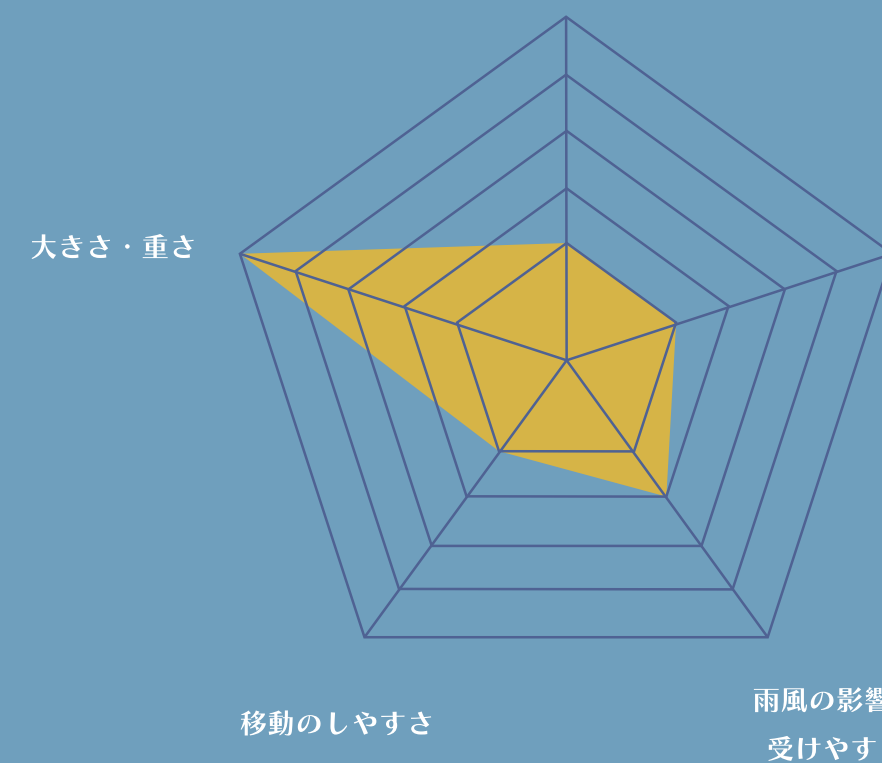
修景のしやすさ



特徴

ボックス上部か側面に扉・ふたがついている。上部が斜めになっているものも見かける。小屋型との違いはサイズ・屋根の有無・地面との高さ関係等としているが、明確な線引きは難しい。幅のサイズは小屋タイプに匹敵するような大きさのものもある。大きさの割に内容量が少なく設置数が必要。また設置にある程度のスペースが必要のため、開けた道路や空き地の隅、水路の上に設置していることが多い。様々な素材のものが、折りたたみ式も多い。修景を行ったものはほとんどが木製で、重く大きめ。経年による色や風合いが感じられるものと、素材本来の色ではなく塗装されているものがある。鋼材は材が錆びたことで、より町並みに馴染んでいるものがあった。

修景のしやすさ



特徴

屋根付きで雪の降る地域や山村集落に多い。大量のごみを置いておけるので設置数が少なく済む。しかし、コストが高く、広い設置スペースが必要のため、3タイプの中で設置数は一番少なかった。屋根は片流れ・切妻・陸屋根のものがあり、中には瓦が葺いてあるものもある。切妻屋根は平入りと妻入りのどちらのタイプも見つけた。修景を行ったものの側面は、板張り、格子が多く、中には真鍮造り、ガラス、杉の樹皮を使っているものもあった。扉は引き戸と開き戸の2タイプ。金網の下側には、動物対策として発泡スチロールやトタンなどでガードしているものもあった。動物や雨風に対して耐性があるが、修景は過剰に行われがちで加減が難しい。耐久性があるため数十年単位で使用できる。